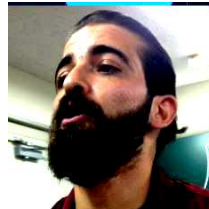


出演者の紹介：ステージ進行順に

MCガザ

パレスチナのガザ地区で生まれ育った青年達のラップグループ。リーダーのイブラヒムを基軸に、メンバー編成はいろいろ変化する。今回の訪日は以下の3人。



イブラヒム・グネイム
(ラッパーで
リーダー)



ムハンマド・
アルバラウィ
(シンガー)



ムハンマドバドワン
・アブムッサラーム
(ドラマー)

MC GAZA のリーダー：イブラヒム・グネイム 『闘士がラッパーに』

「僕は、本当にジハード戦士になる予定でした。もしラップがなければ、パレスチナの抵抗運動に参加してイスラエルに対して武器を持って闘ったでしょう」。

13才の時のたった1回の「ラップコンサート」が彼の心を変えた。

2005年のラップコンサートを聴いて以降、彼は毎晩、インターネットでラップ音楽を食った。

イブラヒムは語る。「特にこの10年間は成功裏に音楽経験を積んでこられたので、グローバル規模のラッパーになる夢は決して捨ません」。

確かにこの10年間、彼はイスラエルに居を構えて音楽活動をしているアルジェリア人ラッパー・Fares Weld El Alma や、デンマーク人のラッパー、パレスチナの歌手、その他たくさんのアーティストと共演を重ねてきた。

イスラムの政治軍事グループであるハマスが選挙を経て統治しているガザ地区の多くの保守層には、ラップは西洋文化の「頹廢した」商品だと映る。

彼は語る。「ラップ自体に対しても、ラッパーに対しても、その芸術性を評価する人はほとんどいません。西洋異世界の物真似をしてるにすぎない、とハマスは思っているのでしょう。」

ガザには二つの劇場があるが、オーナーがラップを嫌っていて、どちらの劇場でもラップ公演を認めてくれない。

それでも、ラップは1990年代以降ガザの地で存在し続けてきた。

イブラヒムは語る。「ラップは僕の情熱です。そのラップがこの地でどんな弾圧を被るかを見届けること、これは僕の人生における重大な問題になりえますね」。

ガザにおいてラップ音楽家としての情熱をあくまで追求するグネイムの闘いは、決して孤独ではない。

イスラエルの支配に対する第二次蜂起の期間中、2001年にレバノンから帰還したアマン・ムガミスは「非道い時代でしたから、私たちは暴力以外の手段で何かを成し遂げたかったのです」と語った。なかった。

ラップは、過去10年間耐えてきた惨めさからガザの人々の心を解き放ち、彼らに喜びを伝えてくれるのだと、グネイムは楽観的に語る。

「それこそラップなんですよ、絶対！」親指を立てながら、彼は力強く言った。

~~~~~  
◎ムハンマド・アルバラウィ (シンガー)

アラブのフォークロア(民謡)大会の優勝者でもある実力者で、25才。

~~~~~  
◎ムハンマドバドワン・アブムッサラーム (ドラム)

民族楽器のアウード(ギターのようなもの)やドルバック(コンボのような太鼓)の奏者。アラブの伝統的ダンスの名手でもある。

